

令和元年度第4回 感染症発生動向調査部会

令和元年7月17日

月番：馬場 尚志

1 前月の感染症発生動向について（2019年第23週～第26週・6月）

<全数把握対象疾患>

- ・ 結核は高齢者を中心に毎週報告あり（累計数はほぼ前年並み）。
- ・ A型肝炎が3例報告された（4月1例、5月1例に続いて3ヶ月連続）。
- ・ レジオネラ症が24週以降に6例報告された。
- ・ 梅毒は毎週報告があり、男性5例はすべて早期顕症梅毒、女性2例はいずれも無症候性であった。
- ・ 百日咳が9例報告された。そのうち6例が15歳未満で、0歳の1名にはワクチン接種歴がなかったが、そのほかの5例には4回のワクチン接種歴があった。3例は成人例（30歳以上）であった。

<定点把握対象疾患>

- ・ 手足口病が前年同期比808.3%、前月比1160.1%と大きな流行がみられている。同様にヘルパンギーナも前年同期比166.7%、前月比1158.6%と流行がみられている。
- ・ 伝染性紅斑も報告が多い状況が続いている（前年同期比2540%、前月比136.5%）。

2 検討すべき課題

- ・ （臨床的意義が高くないとしても）政策的・公衆衛生的に診断確定が強く求められる状況・疾患の提示
→（届出が不十分な現状があれば）それに必要な働きかけ・サポート
- ・ 定点医療機関の見直しの進捗状況・今後の方向性
- ・ 社会への情報提供の方法（継続課題）

3 情報提供すべき事項

<医療関係者に対して>

- ・ レジオネラ症について
 - － 患者発生に季節性（6～8月に増加）があること、患者は建設業や運転手などの職業に多い傾向にあることなど、医療関係者に向けて情報提供したい。（事務局）
- ・ 輸入感染症について
 - － 麻疹、風疹、季節性インフルエンザ、など
（旅行者下痢症や蚊媒介性感染症などは想起されやすいが）
- ・ 外国出身者の感染症について（長期滞在者を含む）
 - － 結核、薬剤耐性菌、など

<一般の個人および職場・学校等に対して>

- ・ 海外渡航時の感染予防について（例年7月と12月に「ぎふ感染症かわら版」で取り上げている）
特に「出発前」の準備（情報収集、ワクチン、予防薬、虫よけや適切な衣服・装備の用意）

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ 国の薬剤耐性（AMR）対策について
 - 感染対策連携共通プラットフォーム（J-SIPHE）
 - 薬剤耐性ワンヘルス動向調査
- ・ 抗菌薬（後発医薬品）の不安定供給の影響・今後について（セファゾリン、その他）

5 前回の検討結果を受けた実績等

- ・ 梅毒
 - 「大人のためのぎふ感染症かわら版」を今月中に発行予定
- ・ 百日咳
 - 一般向け「ぎふ感染症かわら版」を今月中に発行予定
 - 医療関係者向けの情報提供資料を作成中

<検討結果>